

向こう 1 か月の天候の見通し


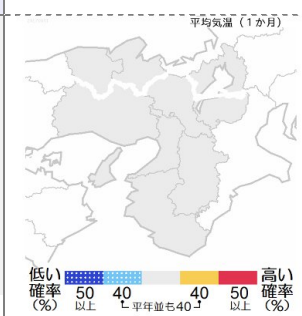
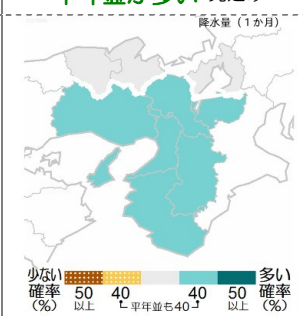
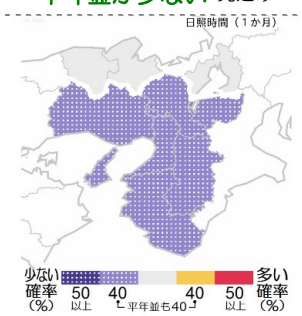
近畿地方（6月3日～7月2日）

大阪管区気象台

予報のポイント

- 太平洋側では、前線の影響を受けやすいため、向こう 1 か月の降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ない見込みです。

1 か月の平均気温・降水量・日照時間

		平均気温（1 か月）	降水量（1 か月）	日照時間（1 か月）
近畿	日本海側	低 30 並 30 高 40% ほぼ平年並の見込み	少 30 並 40 多 30% ほぼ平年並の見込み	少 30 並 40 多 30% ほぼ平年並の見込み
	太平洋側		少 20 並 40 多 40% 平年並か多い見込み	少 40 並 40 多 20% 平年並か少ない見込み
 <p>数値は予想される出現確率です</p>		 <p>平均気温（1 か月）</p>	 <p>降水量（1 か月）</p>	 <p>日照時間（1 か月）</p>

週別の天候

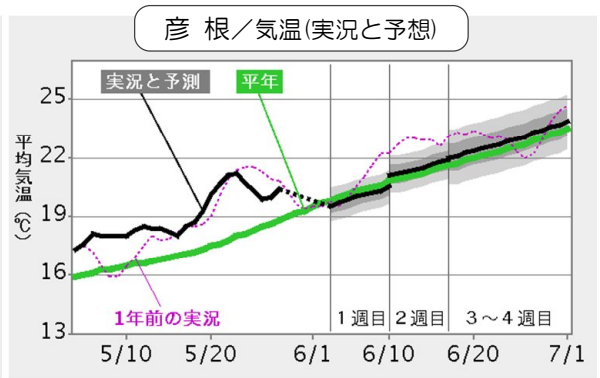
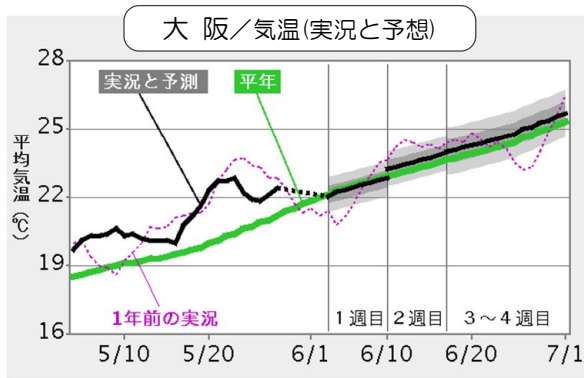
(1 週目) 6/3～9	(2 週目) 6/10～16	(3～4 週目) 6/17～30
期間の前半は、高気圧に覆われて概ね晴れるでしょう。期間の後半は、低気圧や湿った空気の影響で雲が広がりやすく雨の降る日がある見込みです。	前線の影響を受けやすく、平年に比べ曇りや雨の日が多い見込みです。	前線の影響を受けやすく、平年に比べ曇りや雨の日が多い見込みです。

明日から 1 週間の、日別の天気や気温などは、週間天気予報 (<http://www.jma.go.jp/jp/week/>) を参照してください。

季節予報は、予測の確からしさに応じて、気温や降水量などを「低い（少ない）、平年並、高い（多い）」となる確率で表しています。「平年並」がどの程度の値になるのかについては、末尾の「参考データ（平年並の範囲）」をご覧ください。確率をその大きさに応じ言葉で解説しています。詳しくは末尾の「参考データ（確率予報の解説）」をご覧ください。

週別の平均気温

	平均気温（1 週目） 6/3~9	平均気温（2 週目） 6/10~16	平均気温（3~4 週目） 6/17~30
近畿地方	低 40 並 40 高 20% 平年並か低い 見込み	低 20 並 40 高 40% 平年並か高い 見込み	低 20 並 40 高 40% 平年並か高い 見込み
数値は予想される 出現確率です	平均気温（1 週目） 	平均気温（2 週目） 	平均気温（3~4 週目）
	低い 確率 (%) 50 以上 40 平年並 40 高い 確率 (%) 50 以上	低い 確率 (%) 50 以上 40 平年並 40 高い 確率 (%) 50 以上	低い 確率 (%) 50 以上 40 平年並 40 高い 確率 (%) 50 以上



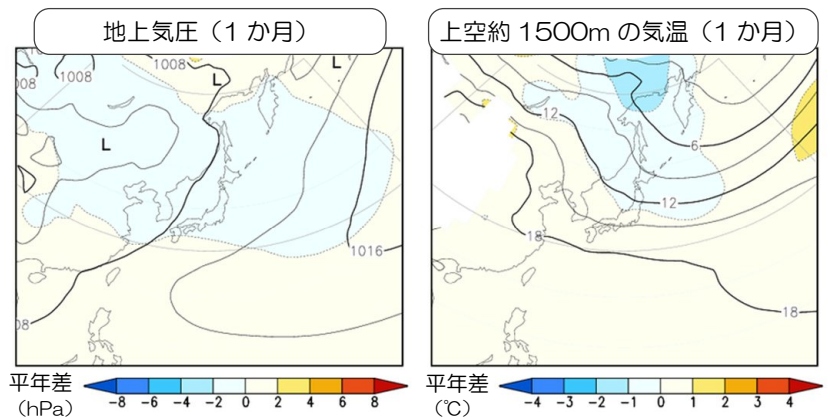
ほかの地点の気温（実況と予想）グラフは、
気象庁ホームページ
<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/longfcst/tjikeiretu/index.php>
で公開しています。

↑ 予想の気温は、週別の平均的な気温の見込みを黒い太線で表しています。信頼の程度が 40%の幅を濃い網掛けで、70%の幅を薄い網掛けで示しています。今年、昨年の実況は 7 日平均気温です。

数値予報モデルによる予測結果

1 か月平均の地上気圧（左図）は、北日本から西日本では低い一方、日本の南海上では高い予測となっています。

上空約 1500m の気温（右図）は、日本の南を中心に高い一方、北日本では低い予測となっています。

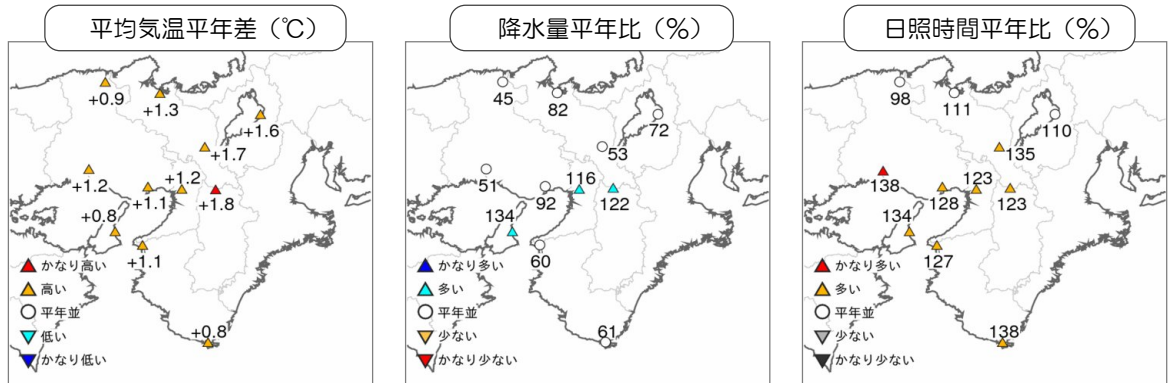


季節予報では、よく似た初期値から出発した多数の数値予報結果を利用します（アンサンブル予報）。多数の結果の平均（上図など）から大気の状態を判断し、また結果のパラツキ具合から予報の信頼度や確率を計算します。

最近 1 週間の天候経過（実況）

5/25~31

期間のはじめと終わりは、気圧の谷の影響で雨の日もありましたが、高気圧に覆われて晴れた日が多くなりました。



(実況) 5/25~31		平均気温平年差	降水量平年比	日照時間平年比
近畿	日本海側	+1.2℃ (高い)	66% (平年並)	106% (平年並)
	太平洋側		86% (平年並)	131% (多い)

参考データ

●平年並の範囲

	平均気温 (1 か月)	平均気温 (1 週目)	平均気温 (2 週目)	平均気温 (3-4 週目)
近畿地方	平年差: -0.1~+0.4℃	平年差: -0.3~+0.5℃	平年差: -0.3~+0.4℃	平年差: -0.5~+0.6℃
彦根	21.3~22.0℃	19.9~20.7℃	20.8~21.6℃	21.9~23.0℃
大阪	23.4~24.0℃	22.2~23.0℃	22.9~23.7℃	23.9~24.9℃

	降水量 (1 か月)	日照時間 (1 か月)
近畿日本海側	平年比: 84~108%	平年比: 89~110%
近畿太平洋側	平年比: 84~112%	平年比: 90~110%
彦根	142.8~204.6mm	127.5~153.4 時間
大阪	135.2~191.2mm	128.7~160.4 時間

「平年並」の範囲は、同時期の過去 30 年間（1981-2010 年）の値から統計的に求めています。30 年間のデータの中で「高い（多い）」「平年並」「低い（少ない）」となるデータの数が等分になるように「平年並」の範囲を決めています。すなわち、30 年間の 30 個のデータのうち、値が高い（多い）方から 11~20 番目となる 10 個のデータの値の範囲を、おおよそ「平年並」の範囲としています。また、実況の分布図にある「かなり高い（多い）」などは、高い（多い）方から 3 番目までの値に相当します。

●晴れ日数と降水日数の平年値

	1 か月		1 週目		2 週目		3~4 週目	
	晴れ日数	降水日数	晴れ日数	降水日数	晴れ日数	降水日数	晴れ日数	降水日数
彦根	12.0 日	11.3 日	4.0 日	2.0 日	3.4 日	2.5 日	4.7 日	6.7 日
大阪	12.6 日	10.8 日	3.9 日	1.9 日	3.4 日	2.5 日	5.3 日	6.4 日

「晴れ日数」は「日照時間が可照時間の4.0%以上」の日数であり、「降水日数」は「日降水量1mm以上」の日数です。この2つは同じ日に起こることがあるため、「晴れ日数」と「降水日数」の両方に数えられる日もあります。

●確率予報の解説（ここでは確率予報を次のような言葉で解説しています）

出現確率 (低い(少ない):平年並:高い(多い))	解 説
高い(多い) 確率が 50%以上	高い(多い) 見込み
(20:40:40)	平年並が高い(多い) 見込み
平年並の確率が 50%以上	平年並の見込み
(40:30:30) (30:40:30) (30:30:40)	ほぼ平年並の見込み
(40:40:20)	平年並が低い(少ない) 見込み
低い(少ない) 確率が 50%以上	低い(少ない) 見込み